



News Release

2022年9月29日

株式会社ニチレイフーズ

約 115 億円を設備投資し、環境配慮型米飯工場を新設

東西 2 拠点体制で旺盛な需要に対応

株式会社ニチレイフーズ（代表取締役社長：竹永雅彦、以下「ニチレイフーズ」）は、福岡県宗像市に約 115 億円を投資し、冷凍米飯工場を新設いたします。本工場は、2023 年 4 月の稼働を予定しており、現在の船橋工場（千葉県船橋市）とあわせ「東西 2 拠点」の冷凍米飯生産体制となります。最新の炒め工程を伴う米飯の生産能力は約 150% となり、伸長する冷凍米飯の需要に応じてまいります。

生産予定の商品例



▲新工場の完成想定図



▲家庭用『本格炒め炒飯®』



▲業務用『特撰中華直火炒めチャーハン』

■投資の背景

ニチレイグループでは、今年度より新中期経営計画「Compass Rose 2024」を策定し「サステナビリティ経営」に取り組んでおります。ニチレイフーズでも、これまで以上に社会課題の解決に注力しつつ、資本効率を追求した経営に取り組み、経済的価値と社会的価値の両立を目指してまいります。

現在、「女性・高齢者の就業率の高まり」や「世帯の少人数化、単独世帯の増加」などの中長期的な社会構造変化を受けて「食の外部化」が進展しています。そのなかで、家庭内での炊飯機会や手作り機会が減少し、簡便調理で喫食可能な家庭用冷凍米飯の需要が高まりを見せています（図1）。一方、炒飯の食卓出現率を見ると、家庭用冷凍炒飯はいまだ25%程度にとどまり、手作りからの代替需要がますます見込まれます（図2）。このような旺盛な冷凍米飯の需要に応えることで、「経済的価値」の獲得をめざします。同時に、CO₂削減等を通じて環境に配慮し、「社会的価値」の向上に努めてまいります。

以上を踏まえ、福岡県宗像市に約115億円を投資し、冷凍米飯工場を新設いたします。現在の米飯主力工場である千葉県・船橋工場とあわせて「東西2拠点」の冷凍米飯生産体制を構築し、BCP対応を推進いたします。

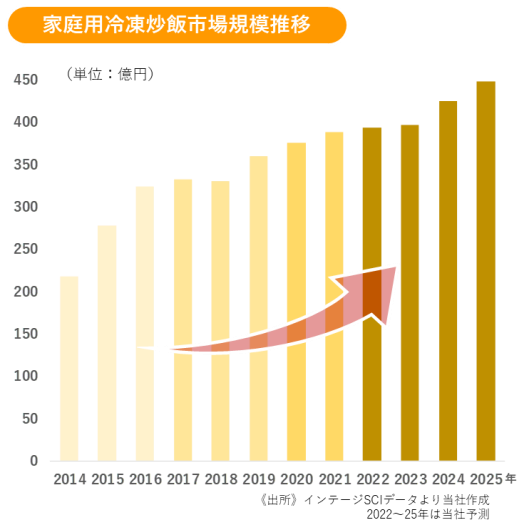


図1

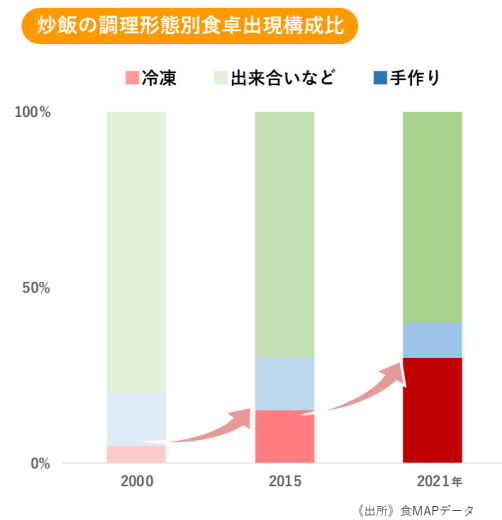


図2

■新ラインの特徴

新工場では、従来生産していた業務用米飯に加え、『本格炒め炒飯®』をはじめとした家庭用米飯を生産することが可能となります。炒め工程を活かした多種多様な米飯商品を生産することができ、またライン上の工夫により、これまで以上に具材を大きくした高付加価値商品等も提供可能となります。

また、持続可能なサプライチェーン構築の観点から、省人化にも積極的に取り組んでまいります。従来の人手作業をロボット化、連続工程や無人搬送へ代替すること等を通じ、生産性の向上を図ります。

新ラインでは、直火加熱と IH 加熱をハイブリッドする独自製法で、炒め工程にかかる CO₂ を削減いたします。また排熱の有効活用や太陽光パネルの設置、再生可能エネルギーの活用等を推進し、将来的に「電気由来の CO₂ 排出量をゼロ」にすることを目指します。

■今回設備投資する新工場の概要

- (1) 所在地：株式会社キューレイ（福岡県宗像市王丸 415-1）
- (2) 敷地面積：鉄骨造 2 階建 延床面積 約 10,200 m²
- (3) 投資金額：約 115 億円
- (4) 生産能力：約 70 トン/日
- (5) 従業員数：90 人程度
- (6) 稼働開始時期：2023 年 4 月（予定）
- (7) 事業内容：冷凍米飯の製造・包装